

# K-らいふ

全学  
一体

## Activity Report of 2025

### 令和7年度 活動報告

- ① 退任によせて、奨学金受賞者 ほか
- ② 令和7年度 学位記・修了証書授与式 ほか
- ③ 卒業生随想
- ④ 令和7年度「伊勢志摩定住自立圏共生学教育プログラム」学修成果発表会、笠原正嗣教授を偲ぶ会 ほか
- ⑤ 中学校修学旅行、高等学校フィールドワーク ほか
- ⑥ 教学振興会寄付者芳名、クラブ応援メッセージ募金納入状況報告 ほか
- ⑦ 研究開発推進センター トピックス ほか
- ⑧ デキゴトロジー

## 退任によせて

令和7年度に退職された方々から寄せられた  
メッセージをご紹介します。

### 感謝

教育学部教授 渡邊 賢二



教育学部教授 渡邊 賢二  
生方や事務助手に恵まれ、たくさんサポートをしていただきました。皆さんがいなかったら、仕事がうまくいっていませんでした。感謝しつづけています。感謝しつづけています。感謝しつづけています。

志を灯す教室で  
教育学部教授 渡邊 毅  
振り返れば、その歩みは常に「志」という言葉とともにあった。若き日に出会った平泉澄先生の歴史学は皇国護持と道義を重んじて生きるとは何かを問いつつ、やがて常勤として学生を送り出す側になった。

### 私の原点

皇學館高等学校・中学校 校長 芝崎 俊也



私の原点  
去る3月1日、百周年記念講堂において、高等学校の卒業式を無事に挙げる事ができました。閉式の辞が終わり、綴帳が降りた瞬間、胸に深い感慨が広がりました。振り返れば、今日の私を形づくってくれたのは、皇學館大学での学びと、教職に就いてから携わってきた高校野球の経験です。なかでも、大学4年間、吟道部で鍛錬に励

始め式で、これまでの県立高校や県教育委員会での経験を、微力ながら学校の振興に活かしてまいりたい」と申し上げました。少子化が急速に進む厳しい状況のなか、すべてを実現できたわけではありませんが、新たな学校づくりに向け、教職員とともに力を尽くしてまいりました。その歩みの評価は、次代の皇學館を担う皆様にお委ねしたいと存じます。今後、さらに豊かな学校づくりを進めてくださることを心より期待しております。

頃、偉人の言葉に触れた生徒が「ありがとうございました」と告げてくれたことがある。その一言に、教育の本質を教えられた気がした。知識を伝える以上に、心に火を灯すこと。それが道徳教育の喜びであり、私を研究へと向かわせた原動力だった。

教育学部教授 渡邊 毅



このままではいけない。人との出会いに導かれ、支えられ、磨かれてきた時間であった。志は書物の中だけでなく、人から人へと手渡されるものなのだ、今あらためて思う。

## 令和7年度 奨学金受賞者

### 学内奨学金授与

#### 長谷奨学金 (10万円)

神道4年 山田ひかり  
神道3年 内藤明日香

#### 慶光院俊奨学金 (10万円)

神道4年 島田 丞  
神道3年 諸正 巨哉

#### 安部奨学金 (10万円)

神道4年 布藤 綾乃  
神道3年 荒川多恵子  
神道2年 榎木 結英  
神道学専攻科1年 廣江 理香

#### 給付奨学金 (10万円)

国文3年 星野 愛  
国史3年 高橋 明鈴  
教育3年 松阪 美咲  
現日3年 中野 華

#### 岡田奨学金 (10万円)

現日4年 生田 愛奈  
教育3年 小川 真依  
国文3年 元梅 麻美

#### 館友会奨学金 (10万円)

神道3年 田中みのり  
神道3年 近藤 理木  
国文3年 西村 太一  
国文3年 大西こころ

#### 専の会教育奨励賞 (図書カード3万円分)

神道4年 釜本奏太郎  
国文4年 山中 永羽  
国史4年 間柄 詩織  
国史4年 南出 基希  
教育4年 澤村 佳純  
教育4年 中西 加奈  
現日4年 大畑 丞司

#### 岡田奨学金、終了に伴う御礼

岡田奨学金は、元学校法人皇學館理事長、皇學館大学名誉教授 岡田重精氏及びご遺族からの寄贈金を学生の奨学に資するため、平成14年4月1日に開設されました。本学の建学の精神を体し、学業及び人物優秀な者を対象として、平成23年度より、2・3・4年次生及び大学院に1年間以上在学する学生に本奨学金の給付を開始しました。その後、平成26年5月19日にご遺族の岡田照子氏から追加の寄贈を受け、今日に至るまでその修学をお支えいただいております。このたび、令和7年度の学部生3名をもって資金の給付が完了することとなりましたが、おおよそ四半世紀にわたり、学部生45名、大学院生28名、計73名に及ぶ社会有為の人材の育成をお助けいただきましたこと、深く感謝を申し上げます。

## 人事異動

### 大学 退職

文学部国文学科 上小倉一志  
文学部コミュニケーション学科 栗林 梓  
教育学部教育学科 渡邊 賢二  
教育学部教育学科 渡邊 毅  
総務部部長 堀井 史仁  
企画部企画担当課長 小津かおり  
学生支援部教務担当 玉田 功  
財務部管財担当主事 小瀬古 学  
学生支援部学生担当 世古 拓摩  
学生支援部教職支援担当事務嘱託 東谷 利和  
教職アドバイザー 大陽 智子  
学生支援部就職担当事務嘱託 田間 敏明  
就職アドバイザー 田間 敏明

### 高校・中学校 退職

高校・中学校校長 芝崎 俊也  
高校教諭 井関 伸芳  
高校常勤講師 堀尾 幸弘  
高校常勤講師 西野 晋弥  
高校養護助教諭 高橋 杏奈  
中学校常勤講師 安保 花音  
学校事務部学校事務室(中学校) 辻 敏晴  
学校事務部学校事務室(中学校) 三好 良夫

### 学外奨学金授与

教育2年 眞鍋 志麻  
教育2年 山根 彩愛  
現日2年 庄山千代里

### 神社本庁育英奨学金 (30万円)

神道学専攻科1年 井上 瑞葵

### 神社本庁育英奨学金 (50万円)

大学院神道学専攻科前期1年 平 快人

### 八坂神社奨学金 (10万円)

神道4年 西田 祥乃  
神道4年 松下 恵吾

### 伏見稲荷大社奨学金 (24万円)

神道4年 赤堀 寛弥  
神道3年 相山もも香  
神道2年 鈴木 誠和

### 神宮特別奨学金 (20万円)

神道4年 西田 祥乃  
神道4年 松下 恵吾

### 八坂神社奨学金 (10万円)

大学院国史学専攻科前期2年 中西 峻





# 卒業生随想

春からそれぞれの志す道を歩き始める卒業生たち。学生生活を振り返り、彼らの胸中に去来するさまざまな思いを語ってもらった。

## 野球部のみんな、出会ってくれてありがとう!

現代日本社会学科  
工藤 岳

就職先 信濃グランセローズ(プロ野球独立リーグ)



大学生活での一番の思い出は、硬式野球部での活動です。神宮出場をめざして、日々練習した毎日は私の人生の中で非常に大切な思い出です。結果的にはあと一步のところまで神宮出場を逃しましたが、この仲間とともにプレーできたことが何よりの財産だと思います。ここで培った経験をこの先の人生に活かしていきたいと思います。皇學館野球部のみんな、出会ってくれてありがとう! 今後の活躍を期待しています!



## 人との関わりの中で

コミュニケーション学科  
田端 琳

就職先 株式会社スズカ未来



振り返ると、大学生活はこれまでの人生で最も多くの人と関わった4年間でした。同じ学科の友人、ゼミの先生、部活動の仲間、ボランティアやアルバイト先で出会った方々、そして就職活動での出会い。私はもともと人と関わることが得意ではなく、それが一番の悩みでもありました。しかし、さまざまな出会いの中で少しずつ人と向き合うことへの不安が薄れ、視野も広がっていきました。戸惑いや難しさを感じることもありましたが、それ以上に楽しい時間を重ねることができたと感じています。出会えたすべての方々に感謝し、この経験を胸に社会へ踏み出したいと思います。

## 学びと縁と夢

神道学専攻科  
河野 美羽

奉職先 太宰府天満宮



私にとってこの1年間は立ち止まる余裕もないほど瞬間なものでありました。この伊勢の地で、同じ志を持った学友と共に神道を学ぶことのできた時間はかけがえない時間であり、実習等を通し互いに成長することのできた時間であったと思います。神職を志してから8年。多くのご縁にも恵まれ奉職が叶い、令和8年度から神職としての人生が始まります。大学での学びを胸に、日々神明に奉仕して参る所存です。最後にはなりましたが、1年間ご指導いただきました先生方、そして共に神道を学んだ皆様へ心より感謝を申し上げますと共に、今後何よりのご多幸をお祈り申し上げます。

## かけがえのない6年間

大学院修士課程教育学専攻  
本木 靖剛

就職先 学校法人不二越工業高等学校



私は、皇學館大学で大学・大学院の6年間を過ごしました。大学では柔道部の活動に打ち込み、仲間と切磋琢磨しながら稽古に励み、私自身が目標としていた全国大会に出場することができました。大学院ではコーチとして部活動に関わり、指導の難しさや責任を学びました。また、研究活動にも取り組み、さまざまな経験を通して教員としての資質を高めることができました。皇學館大学で過ごした6年間は、私にとってかけがえのない時間です。これらの経験を与えてくれた環境と、支えてくださった先生方、仲間、家族に心より感謝申し上げます。

## 出会いを力に

教育学科  
飛岡 愛心

就職先 JAバンク三重



振り返ると、私の大学生活は挑戦と出会いにあふれた4年間でした。未経験から始めた女子軟式野球部での活動はわからないことばかりでしたが、明るく温かい仲間を支えられながら、楽しむことの大切さと成長する喜びを知りました。新しいことに挑戦するのは勇気が要りますが、その先には必ず学びや素敵な出会いがあることを実感しました。また、卒業論文の執筆を通して出会った1人の女性の生き方も、私に新たな視点を与えてくれました。人との出会いに感謝しながら、これからも挑戦を重ね、自分らしく歩んでいきたいです。

## 多くの出会いに感謝して

神道学科  
島田 丞

奉職先 秋葉山本宮秋葉神社



皇學館大学で過ごした4年間は、私にとってかけがえのないものでした。故郷を離れ、不安でいっぱいだった私をいつも支えてくれた両親をはじめ、お世話になった先生方や先輩方、友人たちには感謝の念に堪えません。神職課程での日々の勉強や奉仕などの実習、雅楽部の稽古や神社での奏楽など、友人たちと切磋琢磨しながら多くを学び、経験させていただきました。苦しかったことや辛かったこともありましたが、何より共に悩んでくれる人がそばに居てくれたからこそ、頑張り続けられたと確信しています。多くの出会いに感謝し、大学で結ばれたご縁を大切に、今後の奉職生活を励みたいと思います。

## ゼミで楽しく学べたことが一番の思い出

国文学科  
山口 愛弥

就職先 株式会社オークワ



大学生活の4年間はあっという間だと感じます。特にゼミでは、教授とゼミの仲間と楽しく学べたことが一番の思い出です。中身の濃い授業で、大変興味深い内容でした。フィールドワークでは、「おくのほそ道」をめぐる、実際に訪れなければ知り得なかったことを学べ、大変貴重な経験となりました。また、教員免許の取得という大きな目標を達成できたのも、苦楽を共にした仲間の存在があったからこそだと深く感じています。この4年間で得た数多くの学びと、かけがえない人とのつながりを胸に社会人として世の中に役立つ人間になれるように頑張っていきます。

## 大学での学びと感謝

国史学科  
水谷 彩

就職先 株式会社シー・ティー・ワイ



この4年間の大学生活はとても充実しており、自分のやりたいことがそのまま学びと成長につながる時間でした。博物館学芸員や図書館司書の資格取得に向けて多くの課外学習に参加し、榎原神宮宝物館での実践的な展示作業や神道博物館でのアルバイト、研究室の蔵書整理アルバイトなど、ここでしか得られない貴重な経験を重ねることができました。また、入学前から憧れていた松浦光修先生のもとで学び、先生が受け持つ講義や研究部会にも積極的に参加し、多くのことを教えていただきました。これらの経験は、私にとってかけがえのない学びとなりました。



# 「インクルーシブスポーツ推進プロジェクト」がダブル受賞

## 令和7年度「伊勢志摩定住自立圏共生学教育プログラム」学修成果発表会

3月10日、令和7年度「伊勢志摩定住自立圏共生学教育プログラム」学修成果発表会が対面とオンラインを併用する形式で開催された。CLL活動報告会口頭発表は令和7年度の活動から10団体が、地域志向研究発表会では3名が卒業論文を基に地域課題についての4年間の学びを発表した。

開催にあたり、齋藤平学長が「本日の成果発表会が充実したものになることを期待している」と挨拶。続いて、教育開発副センター長兼地域課題学修支援室長の池山敦准教授が、現場での学びを積み重ねてきた学生たちの発表をぜひ聞き届けてほしいと述べた。



受賞を喜ぶインクルーシブスポーツ推進プロジェクトのメンバー

CLL活動報告会・口頭発表の部では、10の団体が実践を通じて得た知見や成果、今後の課題を共有した。オンライン視聴者を含む投票の結果、オーディエンス賞には「インクルーシブスポーツ推進プロジェクト」が選出された。

CLL活動報告会・口頭発表の部では、10の団体が実践を通じて得た知見や成果、今後の課題を共有した。オンライン視聴者を含む投票の結果、オーディエンス賞には「インクルーシブスポーツ推進プロジェクト」が選出された。

### 令和7年度 CLL活動

活動名	発表団体	新規
1 CLL活動運営学生スタッフ		
2 ばりっ子会議から市政への提言プロジェクト		
3 皇學館オリジナルグッズ制作プロジェクト		
4 リニアインパクト最大化プロジェクト ～2037年に三重県が変わります!～	○	
5 鳥羽なかまち(仲間ち)で地域活性化に取り組もう!	○	
6 フードロスなくせ! いちごスイーツプロジェクト ～規格外いちご「かおり野」を使用したお菓子のプロデュース～	○	
7 度会カフェリョクプロジェクト		
8 ウツボで地産地消プロジェクト		
9 TMKミライデザインプロジェクト (玉城町明るい未来推進プロジェクト)	○	
10 ほめぢぎる教習所伊勢×皇學館 セーフティドライブプロジェクト		
11 宇治山田駅前活性化事業	○	
12 「広報いせ」特集記事制作プロジェクト	○	
13 若者の投票率UP! プロジェクト		
14 消防団の新たな役割発見プロジェクト	○	
15 大学生による「大学生向けおみ分別啓発活動!!」		
16 インクルーシブスポーツ推進プロジェクト ～共生社会の実現を目指して～	◎	オーディエンス賞
17 産学官連携日本酒プロジェクト		
18 地域に貢献する食農教育のイベントプランナー	○	
19 Generative Link AI結(あいむすび)		
20 伊勢志摩TSUTAE隊	○	
21 令和の鳥羽 未来を創るのは君だ		

### 地域志向研究発表会

発表者	演題
岩野 倅 汰(現日4)	私を変えた伊勢志摩
佐々木隆之介(現日4)	伊勢志摩定住自立圏共生学での学びについて
澤原 啓 子(現日4)	伊勢志摩で学び続ける私 ～自分の目で見て耳で聞いて～

### 地域志向研究発表会

地域志向研究発表会では伊勢志摩定住自立圏共生学副専攻を履修した現代日本社会学科4年の3名が登壇。岩野倅汰さんは取り組んだ地域イベントで割り箸鉄砲による射的が好評を博し、保護者から作り方を尋ねられるなど伝統的な玩具が世代を超えた交流を生んだエピソードを紹介した。佐々木隆之介さんは「伊勢の和紅茶」の販促活動について発表。さまざまな出展者との交流を通じ、主観に捉われない客観的な視点を養う重要な

ツの認知度向上に貢献した実績や、計8箇所の小学校および施設で実施した出前授業・講座の取り組みが紹介された。さらに戦略性を高めた種目「スクエアポッチャ」を初めて導入するなど、新たな挑戦を重ねながら活動を発展させてきた軌跡を報告。登壇した学生は、活動を通じて学内外のネットワークを築いただけではなく、主体性や協調性、コミュニケーション能力、問題解決能力を実践的に身に付けられたと手応えを語った。同プロジェクトはポスターセッションの言及が多かったことは印象深い。これらの力は、将来必ず大きな糧となる」と述べ、学生たちの実践的な学びの姿勢を高く評価した。



CLL活動を通じて実践的な学修に取り組んだ学生たち



オープニングの様子

小学校外国語教育研究会 2026-1 in Mie (主催) / 小学校英語教育学会三重支部・三重県小学校英語教育研究会、後援/皇學館大学・三重県教育委員会・伊勢市教育委員会が1月24日に本学で開催され、小・中・大の教員や行政関係者、本学の学生ら53名が参加した。

セミナーは三重県小学校英語教育研究会メンバーと本学学生による、ミラノ・コレティナオリピックを題材とした英語クイズ大会が始まった。

事後アンケートには「オリピック英語クイズ大会を自分の授業でもやろうと思っただけ」の理由と実践の往還で学んだ「理論と実践の往還で学んだ形が新鮮だった」「ICTを授業にどう取り入れていくか参考になった」「次期学習指導要領改訂で何がかわろうとしていくのがわかった」「毎回魅力あるテーマ設定をしていただき感謝している」等の声が寄せられた。

文責/川村一代  
(本学准教授・小学校英語教育学会三重県理事・三重県小学校英語教育研究会会長)

## 小学校英語教育学会三重支部セミナーを開催

「小学校外国語教育研究会 2026-1 in Mie」教科となつて6年、次へ向かうための「確認」と「改善」

性学を学んだと話した。澤原啓子さんは40数年にわたる保育士としてのキャリアを経て本学へ社会人入学した経験をもとに、「学び直しの意義」を力説した。教授陣の熱意に込めるべく、自らも能動的に生きた知見を吸収しようとする日々を振り返った。



「偲ぶ会」で飾られた笠原教授のご遺影

令和7年4月7日に60歳で逝去した現代日本社会学部の笠原正嗣教授を偲ぶ会が、令和8年2月22日に本学倉敷会館で執り行われた。会場には教職員、卒業生、在学生ら約100名が一堂に会し、学部の発展と教育に心血を注いだ故人の功績を称え、ともに、その温かな人柄を懐かしんだ。

続いて登壇した櫻井治男名誉教授は、笠原教授が社会福祉学部と現代日本社会学部の創設において極めて重要な役割を果たした功績を紹介。特に学生の就職支援に対する情熱は並々ならぬものがあったと、学生第一を貫いた教育姿勢を振り返った。齋藤平学長は共に過ごした日々を懐かし、大学にとってかけがえのない逸材を失ったことへの無念さを滲ませた。



挨拶を述べる齋藤学長

教員たちからは、個々の意見を否定せず受け入れる包容力を継ぐ決意を新たにしていた。

や、進路に悩む背中を押し続けてくれた優しさへの感謝が次々と語られた。スライドショーの上映では、笑顔あふれる写真の数々に歓声や笑い声が上がリ、思い出話に花が咲いた。参加した教員たちは「先生の言葉を胸に、社会人として恥じない歩みを続けたい」と、恩師の遺志を継ぐ決意を新たにしていた。

## 笠原正嗣教授を偲ぶ会 教え子ら、恩師の遺志継ぐ決意

高等学校・中学校

# 探究の地図を広げて

## グローバル&キャリア研修 実施報告

言葉の壁を越え、歴史の厚みに触れ、キャリアの糧を得た充実のフィールドワーク。学校生活では経験できない、生きた学びの軌跡をダイジェストでお届けします。

中学校

### グアム修学旅行 (文化理解)

3/10~13



グアム政府観光局訪問 (文化理解)

グアムの歴史や文化のほか、安全性を高めるために街の整備やSNSの活用などさまざまな取り組みが行われていることを学んだ。



JTBデスク訪問 (キャリア教育)

旅行会社の仕事は多岐にわたっており、組織として細分化されていた。訪問先のデスクでは接客とネット対応を中心に行っており、コミュニケーション能力の重要性やチームにおける連携の必要性を学んだ。



恋人岬

恋人岬ではグアムの美しい風景を一望でき、島としての大きさをスケールを肌で感じた。



グアム博物館

太平洋戦争では日本のみならずアメリカ側もまた甚大な被害を受けた事実を展示物を通して再認識した。戦争とは単純に被害者、加害者と二分できるものではなく、双方がそれぞれの背景や事情を抱えていると理解できた。



現地校(セントジョーンズスクール)との交流

現地学生(ハデイ)との授業では共に英語を学ぶだけでなく、日本語を教える機会もあり、現地学生との絆を深めることができた。



マイクロネシアモール

フードコートで食べたピザは日本のもよりもサイズが大きく、驚いた。他の店や料理についても再訪の折にはぜひ挑戦したい。



グルメBBQ

昼食や夕食に登場したステーキとBBQは、肉が柔らかく、味付けも濃くて食欲をそそられ、至福のひとときを過ごした。

高等学校

### 1年生 ◆ 京都フィールドワーク 2/19~20

#### 学校生活では学ぶことのできない経験

大川 絢加

私たち1年生は2日間京都に滞在し、いつもの学校生活では学ぶことのできない経験をしてみました。事前に決めていた座禅・友禅染・

西陣織・清水絵付け・菓子作り・組み紐の6コースから各自で選んだ体験活動に参加しました。場所はコースごとに違い、妙心寺・丸益西村屋・西陣織会館・森陶器館・八つ橋庵かけはし・嵐山レストラ

ンで体験終了後、班別に現地解散し、自力で考えた計画通りに交通機関も利用して京都を巡りました。



### 2年生 ◆ 関西キャリア探究DX研修 2/19~20

#### リクルート社訪問

自ら機会を創り出し、社会を動かそうとする社員の方々の熱意に圧倒された。

● 就職志望であったが、研修を通じて他業種への知見が深まった。● 社員の方が目標を持って働いている姿が印象的だった。

● 伊勢神宮で行っている参拝の作法を住吉大社でも実践できた。みんなとしっかり息を合わせられ、成長を感じた。

働くとは単なる業務の遂行ではなく、主体的に価値を生み出すことだと学んだ。

● 神戸市内の自由散策ではチャイムや先生もいない状況で自分の

● 実際には台湾を訪れ、自分の目で見て体験することで、教科書では得られない現地の雰囲気や人々の暮らしを理解することができた。文化の違いと共通点の双方に気づき貴重な学びとなった。

中高合同

### 台湾研修

3/17~19

楊梅高校では多くの生徒と交流し、柔道の練習も行った。言語の壁を感じつつも充実した時間を過ごした。英語で思うように

現地ではタイから参加していた生徒たちと合同で英語レッスンやアクティビティを実施。街頭インタビューやホストファミリーとの生活を通じて生きた英語を学ぶとともに、世界遺産の見学や観光を通してイギリスの歴史や文化を学ぶ充実した研修となった。

### イギリス短期語学研修

3/19~30

● 中正記念堂ではその壮大さと美しさに圧倒され、台湾の歴史と文化を肌で感じた。衛兵交代式の迫力も印象的であり、伝統工

● 語学学校では街頭インタビューなど日本にはない体験型の授業が多く、楽しかった。観光では、カンタベリー大聖堂の美しさが特に深く心に残り、ロンドンでは映像で憧れていた大迫力の建造物を目の当たりにし、とても嬉しかった。

● 貴婦人の城、リース城にて記念写真



● イギリス研修では英語以上に文化や人とのつながりの尊さを学んだ。ホームステイでは伝えようとする熱意の大切さを実感し、語学学校ではタイの友人との交流を通じて多様な個性や文化を尊重する喜びを知った。現地講師への質問や街頭アンケートでの市民との交流は、人の温かさに触れる貴重な機会となった。

● 貴婦人の城、リース城にて記念写真

大学

### NZ・マレーシアで語学研修を実施

#### ニュージーランドワイカト大学春期研修

2/20~3/15

教育学科2年 中村 光里

出発前は航空機や滞在先などすべてが不安で、到着後3日間はストレスから喉が喉を通らないほどでした。しかし、ホストファミリーの「ここを自分の家だと思っけてリラックスして」という温かな言葉に救われ、一緒にテレビを見ながらつるつるぐほど打ち解けることができました。彼らからは日本について尋ねられることが多く、日本文化についてもっと知識があれば、よりスムーズに交流できたと感じています。また、英語がうまく伝わらず悔しい思いもしましたが、「単語を言うだけで会話は始まる」と気づいてからは、臆



ワイカト大学のキャンパス内

せす話す勇気が持てるようになりました。滞在中は日本にいるときよりもアクティブになり、放課後の外出や一人での買い物など、小さな挑戦を重ね、当初は長く感じた3週間もあっという間に過ぎていきました。何事もチャレンジが大事だと実感した研修でした。

### マレーシアアジアパシフィック大学春期研修

2/22~3/22

コミュニケーション学科1年 河合 真綾

今回のマレーシア留学は英語習得に加え、多民族国家ならではの多様な価値観に触れられる点に魅力を感じて決意しました。滞在中は異なる背景を持つ学生同士、互いの文化を尊重しながら関係を築く濃密な時間を過ごしました。特に印象的だったのは現地学生がアラブ料理を振る舞ってくれ、断食明けの食事「イフタル」を共にしたこととです。授業内のディスカッションでも文化の違いについて率直に意見を交わし、これまで馴染みのなかった国の友人ができたことで、その国を「訪れてみたい場所」として身近に感じるようになりました。また、多文



大学内のカフェテリア

化社会では相手への敬意を行動で示すことが不可欠であり、ラマダン中に教室での飲食を控えるといった細やかな配慮が信頼関係を築く鍵になると学びました。こうした現地の方々との関わりを通じて得た語学・生活・異文化理解のすべてにおいて、本留学はかけがえのない財産となっています。

# 教学振興会 寄付者芳名

## ご挨拶

学校法人皇學館 理事長 圓藤 恭久

平素より本学園の教育・研究活動に対し、格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、教学振興会につきまして、令和7年度においては新規ご入会のお願いを見合わせておりましたが、多くのご寄付をお寄せいただきました。皆様方のご芳志に対し、改めて心より御礼申し上げます。本学の建学の精神は、明治33年に賜った賀陽宮邦憲王殿下の令旨に明示されて

おります。すなわち、皇學館のめざすところは、日本の道義の確立と探究、かつ、その実践にほかなりません。教学振興会では社会に有為な人材の育成を目的として、各種の修学支援を行ってまいりました。ひとえに皆様方のご支援の賜物と深く感謝申し上げますとともに、今後とも一層の教育環境の充実に努めてまいります。ここに、令和7年度のご芳名ならびに寄付金納入状況を報告申し上げます。

## 皇學館クラブ応援メッセージ募金の御礼

令和7年度も多くの皆様にご支援をいただき、厚く御礼申し上げます。左表の通り、令和7年度の納入状況及びクラブへの配分金額をご報告させていただきます。

「皇學館クラブ応援メッセージ募金」は、クラブ活動を通して学生・生徒の主体性を伸ばすために開設しました。ホームページから支援したいクラブをご指定いただき、募金手続きや

メッセージの投稿が可能となっております。いただいた募金は指定されたクラブにお渡しし、投稿メッセージはクラブにお伝えしホームページでもご紹介させていただきます。詳細は右記二次元コードから公式ホームページ内の寄付金ページにてご確認ください。



令和7年11月14日に行われた皇學館クラブ応援メッセージ募金授与式

区分	件数	納入金額(円)
宗教界	3	60,000
館友	33	643,000
大学保護者	4	25,000
一般(篤志家等)	5	60,000
本法人関係	8	138,000
合計	53	926,000

令和7年度クラブ応援メッセージ募金納入状況報告 (令和8年3月31日現在)

指定先クラブ名	件数	配分金額(円)
1 大学 合気道部	2	22,395
2 大学 居合道部	1	3,000
3 大学 駅伝競走部	1	3,000
4 大学 空手道部	1	9,770
5 大学 弓道部	7	80,770
6 大学 剣道部	2	4,000
7 大学 硬式野球部	4	17,268
8 大学 柔道部	3	10,816
9 大学 少林寺拳法部	1	972
10 大学 女子軟式野球部	1	1,000
11 大学 ソフトテニス部	2	34,000
12 大学 薙刀部	1	4,885
13 大学 排球部	2	109,770
14 大学 バスケットボール部	2	9,770
15 大学 陸上競技部	1	20,000
16 大学 音楽部	10	470,370
17 大学 競技かるた部	2	48,760
18 大学 考古学研究会	3	22,179
19 大学 日本文化研究会	1	10,000
20 大学 マンガ研究部	1	2,931
21 高校 吹奏楽部	1	1,000
22 高校 バドミントン部	4	31,550
計	53	918,206
代 行 手 数 料*		7,794
合 計	53	926,000

\*代 行 手 数 料：クレジット会社等の決済代行に伴う手数料

※各クラブへの配分金額は、寄付金額から手数料を差し引いた金額となっております。

令和7年度(再入会者含む)ご入会者ご芳名

- 館友 宮崎 圭子様
- 尊の会会員 丸山 和則様
- 一般(篤志家等) 北岡 健太郎様

令和7年度 学長奨励賞

- 個人部
  - 中川 陽司(教育3) 秩父宮賜杯第78回西日本学生陸上競技対校選手権大会 十種競技優勝(9/12・14)
  - 大窪 理 勇(神道3) 第41回読売書法展 秀逸賞
  - 岡田 文化財(教育3) 第71回伊勢市美術展覧会
  - 南 大 志(現日4) 第74回中日書道展 一科賞
  - 若谷 怜(教育4) 全日本学生柔道体重別選手権大会(男子44回出場/27・28)
  - 鬼塚 勇 志(教育3) 全日本学生柔道体重別選手権大会(男子44回出場/27・28)
- 団体の部
  - 駅伝競走部 第37回出雲全日本大学選抜駅伝競走 総合17位(10/13)
  - 柔道部 2025年度全日本学生柔道優勝大会(男子74回)出場(6/28・29)
  - 2025年度全日本学生柔道体重別団体優勝大会(男子27回)出場(10/18・19)
- 安田 和 真(現日3) 全日本学生柔道体重別選手権大会(男子44回出場/27・28)
- 井上 寛 仁(教育2) 全日本学生柔道体重別選手権大会(男子44回出場/27・28)
- 井野川 幹 太(現日2) 全日本学生柔道体重別選手権大会(男子44回出場/27・28)
- 岡本 樹(現教育1) 全日本学生柔道体重別選手権大会(男子44回出場/27・28)
- 赤松 芽 衣(ミミ) 「地方の時代」映画祭2025 「市民・学生・自治体部門」優秀賞

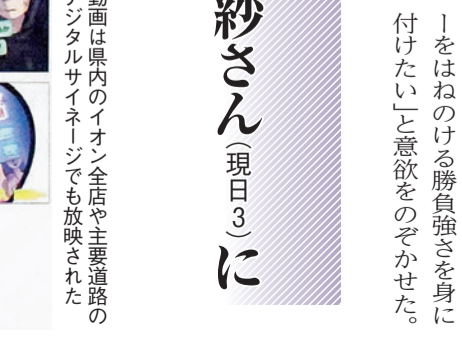


絵を描くことが好きと話す堀口さん

三重県警察本部は、SNSを悪用した子どもへの性暴力防止を目的とした啓発動画の制作において顕著な貢献があったとして、「若樫サポーター」のメンバーである宮下まりなさん(神道4)と堀口実紗さん(現日3)に特別感謝状を贈呈した。

近年、SNS上の写真をAI技術で性的な内容に加工する悪質な手口や、匿名・流動型犯罪グループによる誘い出しなど、子どもを狙う犯罪は一層巧妙化している。こうした深刻な状況を受け、県警はSNSに関する知識を有し、子どもたちと年齢の近い大学生の視点を生かすため、若樫サポーターに動画制作への協力を依頼した。

活動に大きく貢献していただいたと述べ、その功績を称えた。堀口さんは「文字を極力用いず、イラストのみでメッセージを伝える表現に苦心した」と振り返り、「犯罪抑止の一助となれば」との思いで取り組んだ。実際に放映されている様子を目にし、大変光栄に感じている」と喜びを語った。



動画は県内のイオン全店や主要道路のデジタルサイネージでも放映された



授与された賞状とメダル

2人チーム戦で第3位に輝いた。眞金さんは「数少ないチーム戦で結果を残せて嬉しい。一投一投に集中することを意識した」と大会を振り返る。小学4年生でポウリングに出合い、高校から本格的に競技に打ち込んできた。競技を通じて培った「諦めない心」や「コミュニケーション力」は、現在の学業や日常生活の支えにもなっているという。今後は個人戦でも好成績をめざしたいと、さらなる飛躍を見据える。

父親の影響で12歳から競技を始めた澤田さんは、「レインのオイルコンディションによって難

眞金英麗奈さん(教育1)、澤田枇奈さん(高1)がチーム戦で準優勝・第3位 第42回東海地区ポウリング選手権大会



授与された賞状とメダル

# 研究開発推進センタートピックス

平成25年に発足して以来、研究の成果を発信し、地域の知の拠点としての役割に期待がかかる「研究開発推進センター」。令和7年度の活動を報告します。

## 神道研究所

### 「日本中世の神観念—中世の日記から—」——公開学術講演会

公開学術講演会「日本中世の神観念—中世の日記から—」(西山克京都教育大学名誉教授)が令和7年(2025)7月3日、本学4号館431教室で開催され、115人が参加した。



講演を行う西山氏

西山氏は、中世の古記録を読み解きながら、そこに見える当時の人々の神に対する態度や畏敬の念、さらには怪異現象をどのように理解していたかなどについて述べ、中世の神観念を一

言で言い表す言葉は「神の擬人化」であると講じた。この講演の内容は、『皇學館大学研究開発推進センター紀要』第13号に収録予定である。

### 「式年遷宮の聖性と信仰」——公開学術シンポジウム

公開学術シンポジウム「式年遷宮の聖性と信仰」が令和7年(2025)12月20日、本学2号館231教室で開催され、90人が参加した(詳細は、学園報第109号)。

神宮式年遷宮の祖型を確認して、それがどのように継承・展開・変遷して今日にまで受け継がれてきたのかを検討する発題と相互討論を行った。

#### 【基調発題】

牟禮仁氏(深志神社宮司、元本学教授)「遷宮と聖性—祖型と展開—」

#### 【発題】

佐野真人(本学研究開発推進センター准教授)「延暦儀式帳—時代の式年遷宮—」



熱心に耳を傾ける聴講者

音羽悟氏(神宮参事、本研究開発推進センター共同研究員)「持続可能社会と神宮の自給自足」

【コーディネーター】櫻井治男(本学名誉教授)

このシンポジウムの内容は、『皇學館大学研究開発推進センター紀要』第13号に収録予定である。

## 佐川記念神道博物館

### 企画展「和歌の諸相—時代による変遷を追って—」

「久邇家の至宝—昭和100年をむかえて—」ほか

企画展「和歌の諸相—時代による変遷を追って—」(10月6日)による変遷を追って—(10月6日)



宮家の歴史を物語る至宝

11月1日は「和歌文学会」開催のもと、和歌関連文献から時代と共に変容する和歌の姿について紹介した。同じく企画展「久邇家の至宝—昭和100年をむかえて—」(11月10日、12月20日)では、本学の創始に所縁のある「久邇家」に伝来した至宝を紹介した。また、ミニ展示、博物館学芸員課程履修生による展示などを4回開催した。

### 令和7年度企画展に関連したテーマで教養講座を開催

「久邇家の至宝—昭和100年をむかえて—」の企画展テーマにおいて、5名の講師により以下のとおり開催した。

第1回 9月27日

「宮家成立以前—皇親の範囲と臣籍降下—」

講師 佐野真人  
皇學館大学研究開発推進センター准教授

第2回 10月18日

「四親王家の江戸時代」

講師 吉野健一  
文化庁文化財調査官

第3回 11月15日

「伏見宮貞親王とその文化活動」

講師 岡野友彦  
皇學館大学文学部教授

第4回 11月22日

「ギャラリートーク(展示案内)」

講師 浦野綾子・小林郁  
佐川記念神道博物館学芸員

### 夏休み親子教室・ワークショップ

親子教室は「切り絵ランプを作ろう!」(7月26日)、「怪盗Sをさがせ!」(7月27日)の2企画を1日ずつ開催。小学生とその保護者65組169名にご参加いただいた。ワークショップは、「松阪もめんストラップを作ろう!」(8月31日)に34組72名、「玉串を作ろう!」(12月13日)に17組29名ご参加いただいた。(詳細は学園報第107号)



盛況を博した玉串作り

## 史料編纂所

### 恒例の古文書講座、公開講座の開催 創立百五十周年に向け『日本後紀史料』第1巻刊行

史料編纂所では、例年、一般市民の方々に編纂所の事業内容を知っていただくために、古文書講座と公開講座を実施している。令和7年度は、研究開発推進センター共同研究員の梅田優歩氏が古文書講座を担当した。5

月永青文庫所蔵の「織田信長文書」にみえる伊勢国の一向一揆平定について、10月には近世の伊勢参宮にかかわる瓦版を紹介した。どちらも三重県や伊勢市にかかわった文字資料で、聴講者は地元の歴史を学びながら

古文書の解説に熱心に取り組んでいた。

9月の公開講座では、神宮文庫の窪寺恭秀氏をお招きし、「神宮文庫の蔵書を開く」と題して、神宮文庫の創立の経緯や蔵書についてご講演いただいた。奇しくも令和7年は神宮文庫が倉田山に移転して100周年の年であった。

また、令和7年度は、第一部門の成果として、『日本後紀史料』第1巻を刊行した。本書は、

## 令和6年度 優良教育実践

(令和7年6月18日受賞)

国文学科 平石 岳 助教	文章能力向上のためのレポート執筆と、学修者自身による見直しの時間の設定
教育学科 市田 敏之 准教授	ICT教育特別講座の計画・実施におけるリーダーシップ



向学心あふれる受講者が集う古文書講座

紙媒体での刊行を行わず、本学の学術リポジトリのみの公開とし、多くの人に手軽に閲覧していただくことを望む。さらに必要となればデータを修正し、最新の史料集を提供することが出来るのも強みである。創立百五十周年記念の年の完成を目標に掲げて進めている。今後とも大方のご支援を乞う次第である。

## 皇學館大学出版部 新刊のご案内

令和7年度に出版された書籍のご案内です。

### イラストでわかりやすい! 審判ジェスチャーからみる柔道ルールブック

教育学部准教授 佐藤武尊 共著  
A5判 60頁  
定価 1,870円(本体価格1,700円)

審判ジェスチャーから柔道の判定とルールを直感的に理解でき、観戦・指導に役立つ実践的入門書。子どもから指導者まで幅広く活用できる柔道ルール理解の決定版必携書。



### 臨床心理学覚書

文学部准教授 高沢佳司 著  
A4判 186頁  
定価 1,408円(本体価格1,280円)

公認心理師学部段階カリキュラムの「臨床心理学概論」「心理的アセスメント」、および心理学の卒業論文執筆までこれ1冊でカバー。



### 学びはじめ心理学

文学部教授 芳賀康朗  
文学部准教授 栗野理恵子  
文学部准教授 高沢佳司  
文学部准教授 中山 真 著  
A5判 137頁  
定価 891円(本体価格810円)

大学での学びをスムーズに始められるように、現代心理学の基本概念や専門用語を主要テーマ別に整理した初学者向けの一冊。



### 講演叢書

令和6年度月例文化講座 年間テーマ●伊勢と御遷宮

### 第216輯～第221輯 伊勢と御遷宮

文学部教授 板井正斉 特別教授 橋本雅之  
文学部教授 松本 丘 文学部教授 中山 郁  
文学部准教授 高野裕基  
特別教授 河野 訓 著  
B6判 234頁  
定価 3,300円(本体価格3,000円)

第63回式年遷宮の始まりの年にあたり、神道学科教員があらためて歴史や魅力をわかりやすく解説した。



ご注文の際は、出版部ホームページ(右記のコード)からアクセスできます)からお申込みください。

問合せ先 皇學館大学出版部 TEL0596-22-6320



令和7年度 デジタルトロッジ 行事日誌

大 学

Table of university events from April to March, including lectures, seminars, and cultural activities.

高 校

Table of high school events from April to March, including school activities and sports.

中 学

Table of middle school events from April to March, including school activities and sports.

高 校

Table of high school events from April to March, including school activities and sports.

中 学

Table of middle school events from April to March, including school activities and sports.